

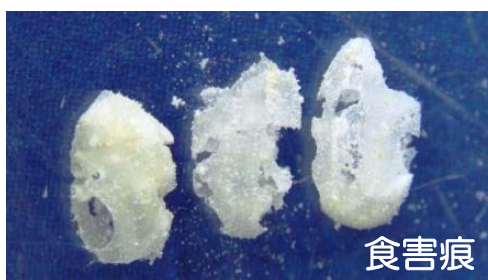
# 平成24年度病虫害発生予報第9号(12月予報)

＜お知らせ＞防鳥ネット設置によるレタスのシロガシラ被害対策についてのコラムがあります(12ページ参照)。

## 今月のトピックス

## コクゾウムシ (貯蔵米)

学名 : *Sitophilus zeamais*



### 生態と被害

コクゾウムシは、米、麦、トウモロコシなど、イネ科穀物の害虫である。日本各地および世界各地に広く生息するが、特に温帯地域に多く分布する。

成虫は紡錘型で、細長い口吻を持つ。体色は黒褐色で、鞘翅に2対の橙色の斑紋を有する。幼虫は蛆状で足は退化しており、体色は白色で頭部は淡褐色である。

成虫および幼虫が穀物を加害する。成虫は、口吻で穀粒に穴をあけ、中に1卵ずつ産卵する。孵化した幼虫は、穀粒内部を食害しながら成長し、穀粒の中で蛹化する。羽化した成虫は数日穀粒に留まり、脱出口をあけて這い出す。成虫は外側から穀粒を食害する。被害を受けた穀物は空洞化し壊れやすくなる。

本邦では、特に貯蔵米の重要害虫である。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>

平成24年11月29日  
沖縄県病虫害防除技術センター

## I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	50	20	40

(平成24年11月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.7	21.2	16.3	102.8	115.6
宮古群島(宮古島)	19.7	22.0	17.8	131.3	101.3
八重山群島(石垣島)	20.1	22.7	18.0	126.3	100.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 12月の発生予報概要

作物	病虫害名	発生量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	カンシャシクイハマキ	—	—	多
	野そ	—	並	—
きゅうり(施設)	うどんこ病	並	—	—
トマト	トマト黄化葉巻病	並	—	—
オクラ	うどんこ病	—	—	やや多

## III その他注意すべき病虫害等

※本文中では○(白丸)にて表記

作物	病虫害名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	カンシャシクイハマキ		○	
	イネヨトウ	○	○	○
	野そ	○		○
マンゴー	花芽分化期の病虫害	○	○	○
かぼちゃ	モザイク病		○	
	定植時および生育初期の病虫害			○
	交配期～着果期の病虫害		○	
とうがん(施設)	交配期～収穫期の病虫害		○	
きゅうり(施設)	黄化えそ病	○		

### Ⅲ その他注意すべき病害虫等(続き)

※本文中では○(白丸)にて表記

作物	病害虫名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
にがうり(施設)	モザイク病	○		
	うどんこ病		○	
ピーマン	チャノホコリダニ	○		
小ぎく (年末出荷用)	白さび病	○		

#### ☆ 予報の見方 ☆

「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にして下さい。

#### ◇ 一般的な病害虫防除対策について ◇

- a 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- b 薬剤抵抗性害虫や薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布に努める。
- c 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。
- d 防除効果を高めるため、むらのないよう丁寧に散布する。
- e 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- f 多湿にならないよう、圃場の排水をよくする。
- g 病原菌は雨水や風で伝搬されるので、ビニールの破れ等を補修する。
- h 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

# 平成24年度沖縄群島病虫害発生予報第9号(12月予報)

## I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	50	20	40

(平成24年11月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.7	21.2	16.3	102.8	115.6

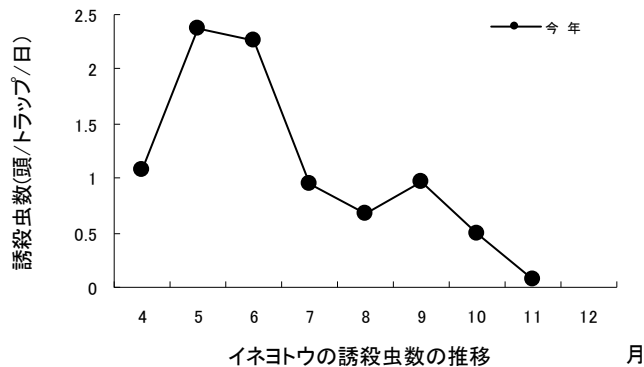
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 12月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### ○ イネヨトウの防除対策

- a 11月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.7%(前年5.2%)であった。
- b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



#### <防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病虫害発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

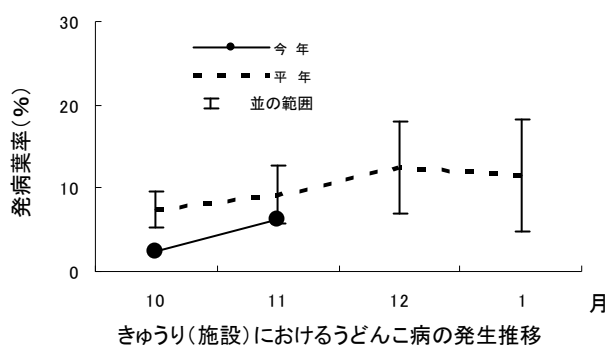
- 野その防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、被害茎率は1.1%（前年0.1%、平年0.1%未満）と平年より高かった。また、一部圃場では集中的な被害がみられた。
  - b 度重なる台風の襲来によりさとうきびの倒伏が激しくなっており、野そが好む環境となっていることから、圃場管理に努める。
  - c 畜舎や野そが水飲み場として利用する用水路等の周囲の圃場での被害が多い傾向にあるので、それらの場所では重点的に防除を行う。

## 2 マンゴー

- 花芽分化期の病虫害防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、かいよう病およびチャノキイロアザミウマ、ハダニ類などの発生がみられた。
  - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の動向に注意し、防除を徹底する。
  - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
  - d 炭疽病、軸腐病及びかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
  - e 現在発生している不要な新梢は、病虫害の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

## 3 きゅうり(施設)

- (1) うどんこ病
    - 発生程度 : 並
    - 予報の根拠
- 11月下旬の調査の結果、発病葉率は6.3%（前年10.0%、平年9.2%）と平年並であった。



### <防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

- 黄化えそ病の防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、一部の施設で発生が多くみられた。
  - b 着果前の発病株は、見つけ次第抜き取り処分する。
  - c 媒介虫であるミナキイロアザミウマの防除を徹底する。
  - d 施設内外の雑草は、ミナキイロアザミウマの発生源となるので、除草に努める。

## 4 にがうり(施設)

- モザイク病の防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、すべての施設で発生がみられた。
  - b 着果前の発病株は、見つけ次第抜き取り処分する。
  - c 媒介虫であるアブラムシ類の防除を徹底する。
  - d 施設内外の雑草は、アブラムシ類の発生源となるので、除草に努める。

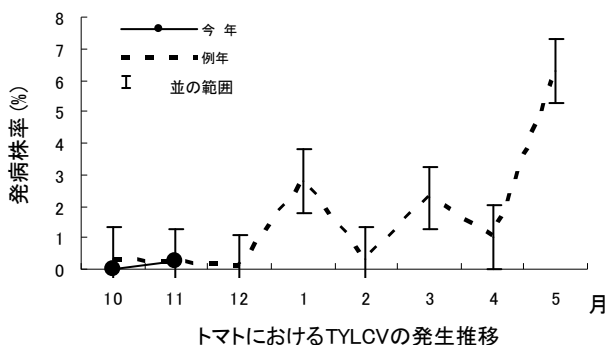
## 5 ピーマン

- チャノホコリダニの防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、一部の施設で発生が多くみられた。
  - b 芯葉部や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、むらのないよう丁寧に散布する。

## 6 トマト

- (1) トマト黄化葉巻病  
発生程度：並  
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病株率は0.3%（前年0%、例年0.3%）と例年並だった。



<防除上注意すべき事項>

- a 発病株は感染源となるため、早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋に入れるなどして密封し、圃場外へ持ち出し処分する。
- b 施設内外の野良生えトマトは、本病の感染源および媒介虫であるタバコナジラミの発生源となるので、抜き取り密封処分する。
- c 黄色粘着テープ等により、タバコナジラミの早期発見・早期防除に努める。
- d タバコナジラミの薬剤防除を行う場合は、マルハナバチに影響の少ない薬剤を選定する。

## 7 小ぎく(年末出荷用)

- 白さび病の防除対策
  - a 例年春から初夏に発生が増えるが、前年度は11月中旬に購入苗栽培圃場で発生した。
  - b 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
  - c 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
  - d 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
  - e 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
  - f 栽培終了後は近隣圃場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

# 平成24年度宮古群島病虫害発生予報第9号(12月予報)

## I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	20	40	20
平 年 並	30	40	40
低い(少ない)	50	20	20

(平成24年11月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.7	22.0	17.8	131.3	101.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

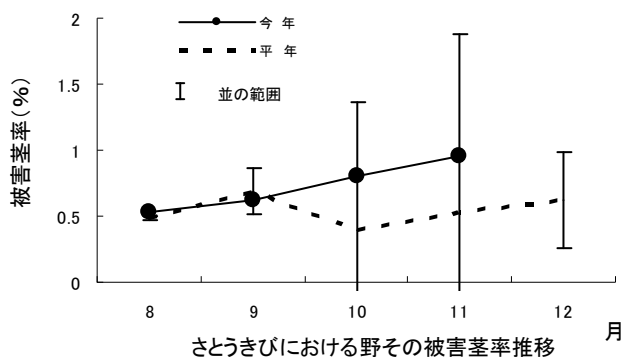
## II 12月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### (1) 野そ

発生程度 : 並  
予報の根拠

11月中旬の調査の結果、被害茎率は1.0%(前年0.5%、平年0.5%)と平年並であった。

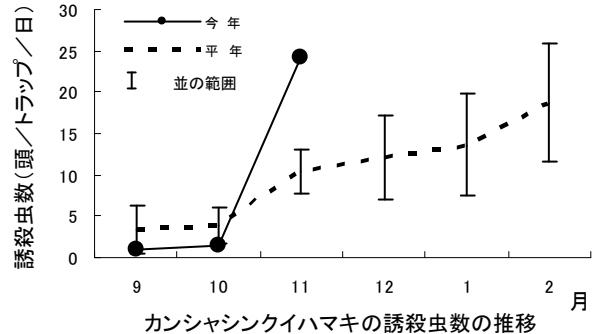
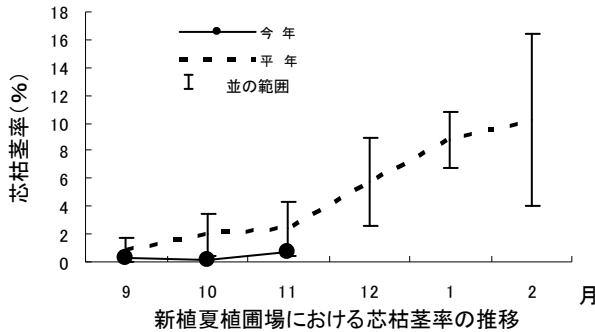


<防除上注意すべき事項>

- a 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- b 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- c 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.7%(前年3.3%、平年2.4%)と平年よりやや低かった。
- b 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は24.3頭(前年22.1頭、平年10.5頭)と平年より多かった。

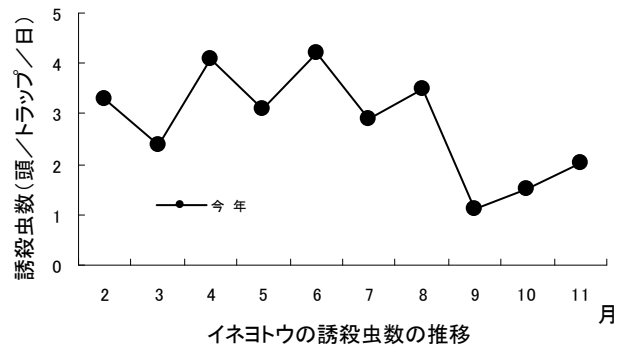
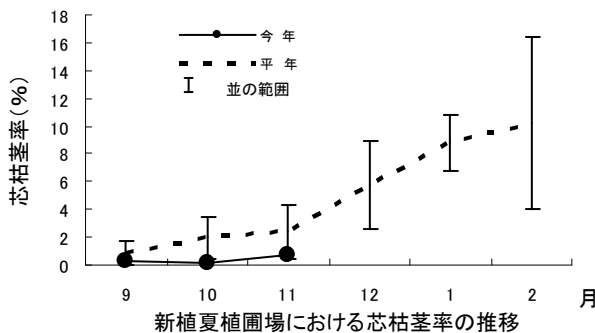


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.7%(前年3.3%、平年2.4%)と平年よりやや低かった。
- b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.0頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。



## 2 マンゴー

- 花芽分化期の病虫害防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、かいよう病およびチャノキイロアザミウマ、ハダニ類などの発生がみられた。
  - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の動向に注意し、防除を徹底する。
  - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
  - d 炭疽病、軸腐病及びかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
  - e 現在発生している不要な新梢は、病虫害の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

## 3 かぼちゃ

- モザイク病の防除対策
  - a 11月中旬の調査の結果、モザイク病の発生株率は、1.4%（前年7.0%、平年1.3%）と平年並であった。
  - b 発病した株は早期に抜き取り、処分する。
  - c 媒介虫であるアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去するとともに、薬剤防除を行う。
- 交配期から着果期にかけての病虫害防除対策
  - a 気象予報によると、向こう1か月の降雨量が多く、日照時間が少ないため、細菌性病害が発生しやすいと考えられるので、予防散布を行う。
  - b うどんこ病は着果期以降に増加しやすいので、防除対策を徹底する。
  - c ハモグリバエ類、アブラムシ類、タバココナジラミ等の害虫は、発生源となる圃場内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。

## 4 とうがん(施設)

- 交配期から収穫期にかけての病虫害防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でハモグリバエ類およびタバココナジラミの発生が確認された。
  - b 気象予報によると向こう1か月の降雨量が多く、日照時間が少ないため病害が増加すると考えられるので、予防散布及び着果期以降に不要な下葉を除去し透光通風をよくするなどの対策を徹底する。
  - c ミナミキイロアザミウマ、ハモグリバエ類、タバココナジラミ、ハダニ類等の害虫は、発生源となる施設内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。

## 5 にがうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でうどんこ病の発生が確認された。
  - b 気象予報によると、向こう1か月の降雨量が多く、日照時間が少ないため発生が助長されると考えられるので、粉剤などで予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。。
  - c ネット下の葉や老葉などを除去して透光通風をよくする。

# 平成24年度八重山群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

## I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	50	20	40

(平成24年11月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	20.1	22.7	18.0	126.3	100.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

## II 12月の発生予報および防除上の注意事項

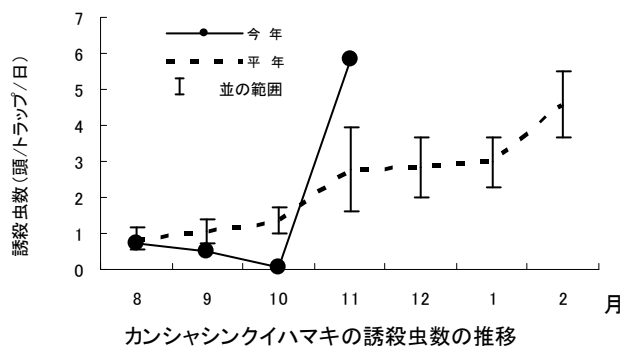
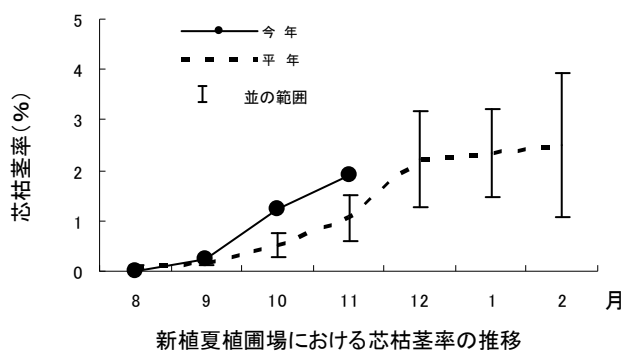
### 1 さとうきび

#### (1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : 多

予報の根拠

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は1.9%(平年1.2%、前年2.5%)と平年よりやや高かった。
- b 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は5.9頭(前年0.9頭、平年2.7頭)と平年より多かった。

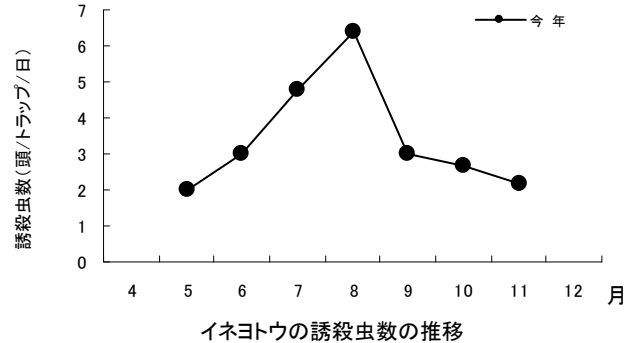
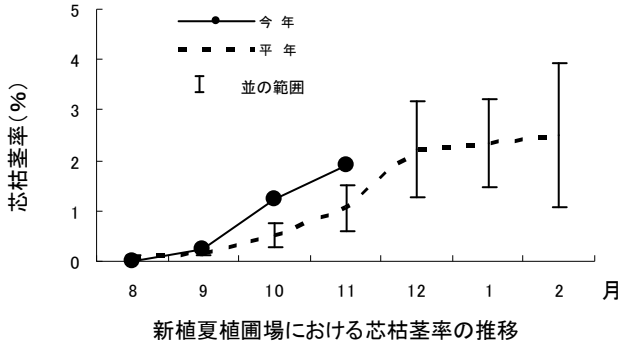


#### <防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は1.9%(平年1.2%、前年2.5%)と平年よりやや高かった。
- b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.1頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

○ 野その防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、被害茎率は0.1%未満(前年0.1%未満、平年0.4%)と平年よりやや低かった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

## 2 マンゴー

○ 花芽分化期の病害虫防除対策

- a 11月下旬の調査の結果、かいよう病およびハダニ類の発生がみられた。
- b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の動向に注意し、防除を徹底する。
- c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
- d 炭疽病、軸腐病及びかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- e 現在発生している不要な新梢は、病害虫の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

## 3 かぼちゃ

○ 定植時および生育初期の病害虫防除対策

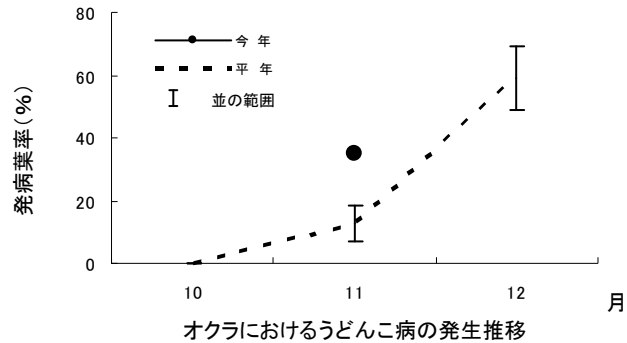
- a 11月中・下旬の調査の結果、タバココナジラミおよびアブラムシ類の発生がみられた。
- b ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、コナジラミ類、ハモグリバエ類などの防除対策として、定植時に粒剤を施用する。
- c 害虫の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
- d ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。

## 4 オクラ

### (1) うどんこ病

発生程度 : やや多

11月中旬の調査の結果、発病葉率は34.7%(前年17.0%、平年12.6%)と平年より高かった。



### <防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

## コラム：防鳥ネット設置によるレタスのシロガシラ被害対策

シロガシラ（図1）による農作物への被害（図2）は例年12月からみられます。昨年、被害対策として紹介しました糸満市の農家による設置方法が効果的、かつ、実用的なので、再度紹介します。

### 1. 防鳥ネット設置の概要（図3、4参照）

- (1) パイプを約2mの高さに箱型に設置する。ネットのたるみを支えるため、内側にも設置する。
- (2) 防鳥ネットは2cm目合いを用いる。
- (3) シロガシラがすそから侵入するのを防ぐため、ネットは地面に接するように設置する。

### 2. 設置の利点

- (1) 薬剤散布、施肥等の管理作業に支障がない。
- (2) 設置に要する時間は10アールあたり4人で2時間程度である。
- (3) 資材（ネット及びパイプ）は、くり返し使用できる。



図1. シロガシラ



図2. 被害状況

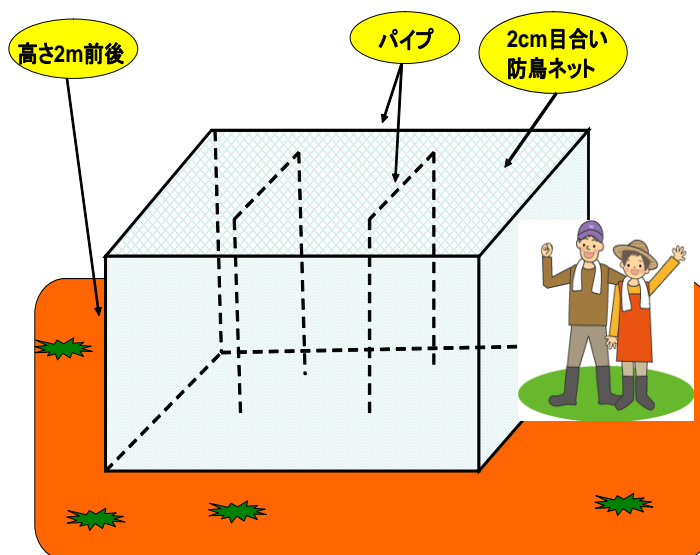


図3. 設置の概要



図4. 防鳥ネット設置状況（糸満市）

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157